

わくわく園庭日記

蒲幼稚園 No.3 R2, 7, 3

梅雨に入り、雨の日が続きました。木も花も遊具も土山もどれもこれもみんなびしょびしょ。園庭の様子がいつもと違って見えました。たくさんの川ができて、大きな水たまりもできています。園庭に出てきた子どもたちは、いろいろな楽しみを見つけていました。上から落ちてくるたくさんの雨だれはその一つ。手を差し伸べたり、カップや口で受け止めたりしていました。

アウトドアが盛んな北欧の国では「天気が悪い」という表現がないそうです。雨の日には雨の日の楽しみがあり、しずくが輝く緑には、地上にみなぎる力を感じます。先日の被害を及ぼすような激しい雨は困りますが、私たちも雨ならではの楽しみを見つけられたらいいです。



生き物、見つけた！

雨上がりは虫も元気です。「晴れた～」と喜ぶ声が生き物たちからも聞こえてくるようです。同じく喜んで園庭に出てきた子どもたちは、プランターを動かしたり、土を掘ったりして、たくさんのダンゴムシを見つけてご満悦！子どもが「自分で見つけたい」「自分で捕まえたい」と思ったら、大人が驚くような集中力とチーム力を発揮するものです。「こんなに大きな植木をどうやって動かしたのだろうか？」と子どもが帰った園庭でびっくりすることがよくあります。それだけ、自然には子どもの心を動かす出来事がたくさんあるんですね。



←ダンゴムシの動きをじっと観察。ダンゴムシとワラジムシとの見分けがつかなくなったことも、子どもにとってはちょっとした自信に繋がっているようです。「できる」「分かる」って嬉しいんですよね。



↑捕まえた虫にあげる葉っぱを探しています。どんな葉っぱがいいのかな？生き物の飼育は思いやりの気持ちも育みます。



↑5月キンカンの木にアゲハチョウの幼虫を見つめました。チョウは、幼虫のエサとなる植物に卵が産みつけます。最近、アオスジアゲハを見かけました。きっとお宮のクスノキに向かっているのでしょうか。子を思う母親の気持ちはみんな同じですね。

園舎を建て替え、園庭整地を行った9年前には、ダンゴムシすら見つけられませんでした。あえて雑草を残し、緑を増やしたことでダンゴムシをはじめ、チョウ、トンボ、テントウムシ、バッタ、トカゲやカミキリムシも見かけるようになりました。そんな変化も嬉しいんです。